Ⅱ　実践

研究協力校：盛岡市立見前小学校　第５学年

１　パラリンピックスポーツの体験による障がい理解教育の推進

単元名　「パラリンピックスポーツを体験しよう」（Ａ　体つくり運動　ア　体ほぐしの運動）

1	「みんなが楽しくできる」について考えよう
2	ボッチャについて知ろう
3	ボッチャをやってみよう

障がいのある人でも、みんなが公平で楽しくするためには、工夫をするとみんなが楽しめることが分かった。

障がいのある人ばかりに気を使うと、障がいのない人たちが公平でなくなる。公平のバランスは難しいことを学んだ。

みんなで白いボールに近づけるため、声をかけ合うところが楽しかった。（中略）みんなとアドバイスをしたりしながらやるところが楽しかった。

みんながいろんなやり方でやって、ボールを転がしていて、障がいのある人もない人も楽しめるのがいいと思った。

第１時は、車いすの児童が他のクラスと玉入れをするという場面において、「公平」について考えることを通して様々な視点から一緒にスポーツを楽しむための工夫を話し合いました。工夫を考えることが難しい児童がいましたが、グループで話し合う中で「あっ、そうか！」という発言が見られました。自分では考え付かなかったことを友達が考えていたことに気付いたり、友達の意見をもとに工夫をしたりすることができたことが推察されました。

第２時ではボッチャがどのようなスポーツなのかを学習し、実際にボールを投げたり、転がしたりする練習をし、第３時でゲームに取り組みました。一人一人が、自分の一番うまくできる方法を模索しながら投球しており、運動の得意不得意に関わらず、全員が興味をもって取り組む姿を見取ることができました。

この実践は、児童同士の関わり合いから様々な気付きを生み、児童の意識の変容につながるものとなりました。

【　体育・自立活動シート　】　　記載日　２年９月▲日

５年　　氏名　花巻　口子

〔自立活動の目標〕

長期	・自分の体の特性を理解し、安全に気をつけながら運動したり、集団の中で状況に応じて行動したりすることができる。＜１健康の保持(3)(4)、４環境の把握(5)、５身体の動き(5)＞ ・特別支援学級や交流学級で、友達とのよりよい関わり方ができる。＜３人間関係の形成(3)(4)、６コミュニケーション(5)＞
短期（２学期）	・自分の体の特性を理解し、安全に気をつけて交流学級の友達と仲良く体育の学習をする。 ・相手の立場や気持ちを考え、場に応じた会話や発表などができる。

〔運動に対する興味・関心の状況〕

運動することは	意欲的 ・ 意欲的ではない ・ どちらともいえない	好きな活動・運動	サッカー
友達と活動することは	意欲的 ・ 意欲的ではない ・ どちらともいえない		
◇自分にあった「めあて」を正しくもつことができているか	・学習資料等があればできる		
◇めあてを達成するための運動の工夫や練習ができているか	・教員の指導があればできる		
◇協力や教え合いができているか	・友達の協力があればできる		

◇学習の様子
・体育の授業を楽しみにしており、みんなと同じように運動しようとしている。
・個人目標に対して努力しようとする姿が見られるが、チーム等集団での活動においては、周りの児童に任せ、傍観しているように見えることがある。

〔体育（運動領域）で配慮すべきこと等〕

・股関節への強い衝撃、負担を避けること。

〔体育（運動領域）への参加状況〕

領域	参加方法	困難さ		具体的な支援
A　体つくりの運動系	全部参加	なし		
B　器械運動系	一部参加	あり	・跳運動が難しい	
C　陸上運動系	一部参加	あり	・跳運動が難しい ・ハードル高跳びなど強く着地することによる装具の破損の懸念	・見て、動きを学ぶこととする
D　水泳運動系	一部参加	あり	・バタ足は難しい ・経験不足ためか、顔を水につけることができない	・平泳ぎのような形で泳いでいる。
E　ボール運動系	一部参加	あり	・友達とぶつかって、転倒しないように注意する必要がある。	・担任が見ていて、声をかける
F　表現運動系	全部参加	なし		

〔領域　E　ボール運動系　について〕

E　ボール運動系 に対して	意欲的 ・ 意欲的ではない ・ どちらともいえない
E　ボール運動系 に対しての本人の願い	・みんなと楽しくプレーしたい。 ・自分に来たボールはきちんと仲間にパスしたい。
E　ボール運動系　（この単元）の目標	・みんなで楽しくできるルールを選ぶことができる。 ・片手、もしくは両手でパスをつなぐことができる。
E　ボール運動系　（この単元）の評価	

自立活動（６区分27項目）

1 健康の保持	(1)	生活リズムや生活習慣の形成
	(2)	病気の状態の理解と生活管理
	(3)	身体各部位の状態と養護
	(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整
	(5)	健康状態の維持・改善
2 心理的な安定	(1)	情緒の安定
	(2)	状況の理解と変化への対応
	(3)	学習上または生活上の困難の改善・克服
3 人間関係の形成	(1)	他者とのかかわりの基礎
	(2)	他者の意図や感情の理解
	(3)	自己の理解と行動の調整
	(4)	集団参加への参加の基礎
4 環境の把握	(1)	保有する感覚の活用
	(2)	感覚や認知特性への対応
	(3)	感覚の補助及び代行手段の活用
	(4)	周囲の状況の把握と状況に応じた行動
	(5)	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
5 身体の動き	(1)	姿勢と運動・動作の基本的技能
	(2)	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
	(3)	日常生活に必要な基本動作
	(4)	身体の移動能力
	(5)	作業に必要な動作と円滑な遂行
6 コミュニケーション	(1)	コミュニケーションの基礎的能力
	(2)	言語の受容と表出
	(3)	言語の形成と活用
	(4)	コミュニケーション手段の選択と活用
	(5)	状況に応じたコミュニケーション

【　体育・自立活動シート　】

２　体育（運動領域）における一人一人のねらいが達成される授業づくり

単元名　ソフトバレーボール～チームでボールをつなごう（Ｅ　ボール運動）

単元目標

（１）ネット型（ソフトバレーボール）の行い方を理解するとともに、チームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。
（２）ルールを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
（３）運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をすることができるようにする。

1	ソフトバレーボールをやってみよう
2	パスを練習して、みんなでつなごう
３～５	仲間とパスをつないで、ゲームをしよう
6	ソフトバレーボール大会をしよう

2年間を見越した目標となっています。ほとんどの児童が、初めてソフトバレーボールに取り組むため、「つなぐ」ことを意識した学習としました。

＜授業づくりの流れ＞（☆通常学級の担任、〇特別支援学級の担任、■研究担当者）

１　基礎的環境整備のための、クラスの実態把握（☆■）

児童側と教員側の二つの側面から実態把握を行いました。

児童側	通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査（文部科学省、平成24年）
教員側	ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックシート（吉岡・鈴木、2014；宗石・是永・岩城、2019など）

２　合理的配慮を提供するための、特別な支援を要する児童の実態把握と考えられる要因、支援・指導についての検討（〇■）

１で得られた実態把握から、支援の必要な児童について、合理的配慮を提供するための検討を行いました。普段の生活や体育の学習場面での配慮事項等についての調査を行い、それらを可視化するために「体育・自立活動シート」（左下）を作成しました。

これにより、体育の中で配慮すべきことや、体育の中で取り入れるべき自立活動の内容を明確にしました。また、運動領域（今回は「Ｅボール運動系」での実践）における願いを記載することにより、個に応じた目標を設定し、その単元における児童のねらいを意識した学習ができるようにしました。

３　基礎的環境整備と合理的配慮の両方の観点を取り入れた授業実践のための授業指導案の作成（☆■）

基礎的環境整備と合理的配慮の両方の観点を取り入れた、学習指導案を作成しました。本時の展開は、指導上の留意点を、全員への支援である「基礎的環境整備」と、個に応じた支援である「合理的配慮」に分けて明記しました。

〔本時の展開〕

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価） 基礎的環境整備	合理的配慮	準備物
導入		全員への支援	個に応じた支援	
展開				
まとめ				

４　授業実践（☆）

指導案をもとに、授業実践を行いました。チーム内でボールをつなぐことを目標にしましたが、始めはパスがつながりませんでした。声をかけ合うこと、相手が取りやすいようにパスをすること、またキャッチしても良いルールにするなど、児童が話し合いながら進めることで、第６時のソフトバレーボール大会は、みんなが楽しむことのできるゲームになりました。

５　評価（☆〇■）

各時間の評価と併せて、単元目標の評価、基礎的環境整備と合理的配慮についての評価を行いました。支援の必要な児童に関しては、体操リーダーの声がけが変わったことによる動きの変化を見取ることができました。

体操の時、「ゆっくり」「大きく」など、動きを意識できるような声がけにしたよ。

研究主題

「共に学び、共に育つ教育」の充実に向けた授業づくりに関する研究

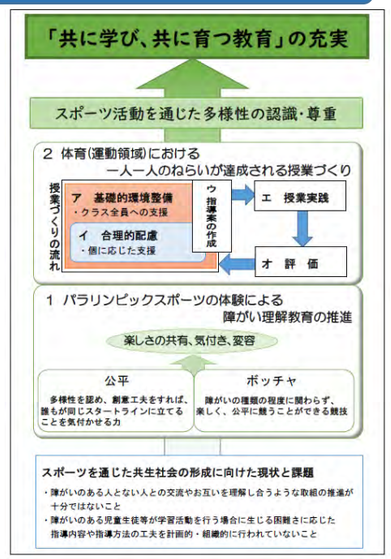
－小学校通常の学級と特別支援学級における体育及びパラリンピックスポーツの体験を通して－

【研究担当者】　阿　部　真　弓　　平　　浩　一
【この研究に対する問い合わせ先】
TEL　0198－27－2821　　FAX　0198－27－3562
E-mail　sien-r@center.iwate-ed.jp

Ⅰ　研究構想

東京 2020 オリンピック・パラリンピックは「多様性と調和」をビジョンに掲げ、共生社会をはぐくむ契機となるような大会を目指しています。本県では、平成 20 年の「岩手県における今後の特別支援教育の在り方」において、「共に学び、共に育つ教育」の推進を基本理念として掲げ、すべての人が互いを尊重し、心豊かに主体的に生活することができる共生社会の実現を目指してきました。

特別支援教育においては、交流及び共同学習を推進し、中でも、通常の学級と特別支援学級の交流は、本県においても多く実施されています。しかし、体育科においては困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫が組織的・計画的に行われないことや交流や互いを理解し合うような取組の推進が十分ではないという指摘がされており、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが必要です。また体育科では今回の学習指導要領の改定において運動やスポーツとの多様なかかわりを重視した内容の改善が図られました。そして、オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実や、運動を通じたスポーツとの多様な関わり方について、具体的な体験を伴う学習を充実させることが示されました。



【研究構想図】

そこで、パラリンピックスポーツの体験を学習活動に取り入れることにより障がい理解の推進をすること、また体育において一人一人のねらいが達成される授業づくりの一例を示すこと、これらを通じて「共に学び、共に育つ教育」の充実に資することを目的としました。

パラリンピックには「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平」の4つの価値があります。中でも、「公平」は「一人一人の違いを理解して工夫すれば、だれもが自分のベストをつくすチャンスがあると気づかせる力。」とされ、スポーツを通じた共生社会の実現に重要な要素と考えます。実践では、国際パラリンピック委員会（ IPC ）公認教材である「 I'mPOSSIBLE（アイムポッシブル」日本版を活用しました。この教材の教育効果として以下の3点が挙げられています。

- パラリンピックスポーツを通じて「できない」ことを「できる」ことに変えるためにどのような工夫がされているかを考え、自分自身の行動を変える機会となる。
- 障害のある人は特別な人、助けられるべき人という認識を覆し、障害がない人と同じように可能性がある人だという発想の転換につなげることができる。
- 他の人との違いを受け入れ、個性を尊重しあえる関係を築くことの重要性に気づくことができる。

Ⅲ　研究のまとめ

実践１では、一つの課題について友達と一緒に解決策を模索したり、実際の競技を体験したりすることを通して、スポーツを通じた障がい理解教育を推進することができました。また、実践２では、通常の学級と特別支援学級の児童が共に学ぶ体育（運動領域）において、基礎的環境整備と合理的配慮という視点から学級全体及び困難さのある児童の実態について整理し、指導案を作成し、授業実践とその評価を行うという授業づくりの一例を示すことができました。

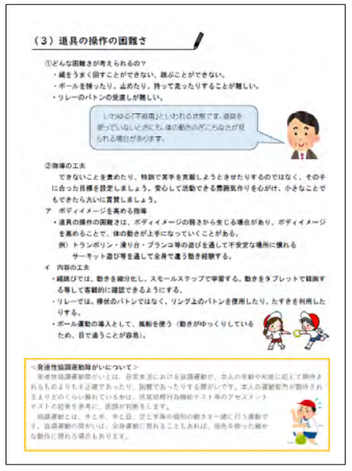
「公平」という考え方を学んだ上で授業づくりを行うことにより、一人一人の児童が安心して自分の力を発揮することにつなげることができました。今回の実践は、スポーツを通じた多様性の認識・尊重につながり、「共に学び、共に育つ教育」の充実に資することができたと考えます。

今後の課題として、教科横断的な視点で障がい理解教育に取り組んでいく必要があることを挙げます。それにより、「共に学び、共に育つ教育」の更なる推進につながると考えます。

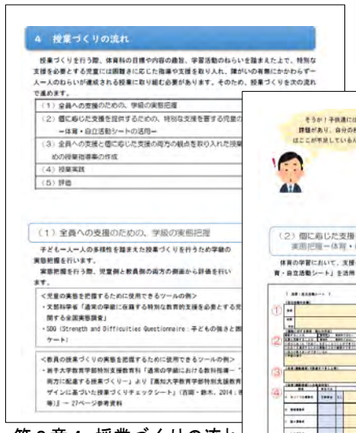
Ⅳ　「豊かなスポーツライフガイドブック」（研究成果物）

研究の成果を踏まえ、児童生徒が示す様々な困難さと、それに対して体育の学習を行う際に考えられる支援の例を示しました。また、小学校において困難さのある児童と通常の学級の児童が一緒に体育の授業を行う際の、授業づくりの流れの一例を示しました。

《目　次》
第１章　「共に学び、共に育つ」ために
　１　「豊かなスポーツライフ」実現のために
　２　困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫
第２章　授業づくりガイド【小学校体育科（運動領域）】
　１　合理的配慮
　２　基礎的環境整備
　３　自立活動
　４　授業づくりの流れ
＜参考資料＞



第１章２ 道具の操作の困難さの例



第２章４ 授業づくりの流れ

「体育・自立活動シート」の活用についても説明しています。

研究報告書と補助資料、ガイドブックは、当センターの Web ページに掲載しております。
【岩手県立総合教育センター】
http://www1.iwate-ed.jp/kankou/kkenkyu/176cd/r02ken.html